

新報

島根県教育庁
隠岐教育事務所
隠岐の島町港塩口24
電話2-9772

点と線

昔の教え子に「先生に毎日本の読み聞かせをしてもらって、嬉しかった。」と声をかけられたことがあります。その時は「私も良いことをしたものだ」という気持ちになっていました。しかし、よく考えると当時の私が読み聞かせをしていた理由は、「私の話を聞いてもらいたい」「静かに集中してもらいたい」というものでした。自分の指導を楽にしたいと読み聞かせをしていたのです。「点」の指導をしていた当時の私に必要だったのは、「線」の指導で教え子たちに関わることであったのでしよう。素敵な声かけをしてくれた教え子には申し訳ない気持ちでいっぱいです。

日本福祉大学の鈴木庸裕先生は「児童生徒理解とは、教師自身の子供理解と子供の思いや願いのずれを修復するものです。児童生徒理解とは、誰のためのものなのかということ。私たちが理解した事柄は、教師のものではなく、子供自身のものだという視点が必要だ。」(出典『月刊生徒指導 2020 5月』学事出版)と書かれています。声をかけてくれた教え子への児童理解を、あの頃の私は自身のものにしてしまっていました。しかしその教え子が、数年後、感謝の気持ちを伝えてくれたのです。私の「点」でしかなかった拙い指導を、「教え子自身の線」という視点で関われた先生方が「線」としてつないで下さったからではないでしょうか。

学校訪問をさせていただくと、先生方が児童生徒と丁寧に関わり、児童生徒理解に努めておられることが感じられます。この熱心なみとりは、最終的に子供たち自身につながる一本の線となるはず。小学校一年生から中学校三年生まで先生方が子供の線をつなぐリレーをしておられます。生徒指導専任主事として、そのリレーの伴走者となるよう関わらせていただきたいと思えます。

子供観の転換

(文責 藤野)

障がいのある子供たちの教育は、子供観そのものを世の中に問いかけてきた。戦後間もない頃、琵琶湖のほとりの近江学園では、障がいの重い子供たちの療育実践から『この子らを世の光に』というスローガンを生み出した。ここでの療育実践は、子供たちの尊厳を徹底的に大事にする精神に貫かれていた。問題行動が見られた場合、生命に危険が及ばない限り、いきなり禁止の対応をとることはない。「その問題行動の意味」―「行動の奥にある発達要求」をみんなで検討し、その発達の意味がわかってから対応にあたる。問題行動を止めようと思ったら、早く問題行動の意味をわかりあおうという内部規律があった。

世紀になり、通常の学級に在籍する障がいのある子供たちに光が当たるようになった。東京の小学校の先生は、指導が立ちゆかなくなる中で、自分の指導姿勢を根本的に問い直した。徹底的にその子に寄り添い、その子の気持ちを共感的に受けとめることから指導をやり直すことにした。そこから生まれた言葉が『困った子は、困っている子』である。この言葉が生まれるまでに、何年にも及ぶ悪戦苦闘の歴史があった。障がいのある子の教育は、子供の尊厳を大事にするとはどういうことかを実践の事実として生み出しながら、教育のあり方や子供観を世の中に問いかけてきたのである。指導が思うように進まないときがある。壁にぶつかり、時に突き返される。心も折れそうになる。そんなとき、「徹底的に子供の尊厳を大事にする」―「子供の内面に寄り添う」そこから打開の糸口も見えてくるのではないか。歴史は、そのことを私たちに教えてくれている。

(文責 野津)

保小連携・接続 研究事業

近年、幼児期における教育の重要性が、以前にも増して着目されています。幼児期における語彙数や多様な運動経験などが、その後の学力や運動能力に大きな影響を与えること。また、忍耐力や自己抑制力、自尊心といった非認知能力を幼児期に身に付けることが、大人になつてからの生活に大きな差を生じさせるなどが研究や調査等で明らかになってきました。このような中、島根県では、幼児教育を所管する部局が、教育委員会、健康福祉部、総務部に分かれていたため、体系的な研修の支援や体制が不十分であったこと等から、平成三十年に健康福祉部との共管による「島根県幼児教育センター」を開設しました。そして、松江、浜田の教育事務所、幼児教育担当指導主事、幼児教育アドバイザーを配置し、幼児教育施設の実情やニーズに合わせ、園・所を訪問しての研修の支援、幼小連携・接続研究事業の支援を行う

てきました。今年度は隠岐教育事務所にも、幼児教育アドバイザーが追加配置されました。また、今年度から二年間の予定で、五箇小学校とごか保育園の保小連携・接続研究事業が始まりました。保育所で育んだ資質能力を生かし、小学校に円滑に移行できるように、保小の連携と接続について実践的研究を行い、教育活動につなげていくというものです。保育所と小学校が共通認識を持ち、つながり、共に研究を進めます。最後になりましたが、今年度より、隠岐地区の幼児教育アドバイザーを承りました若林です。



(文責 若林)